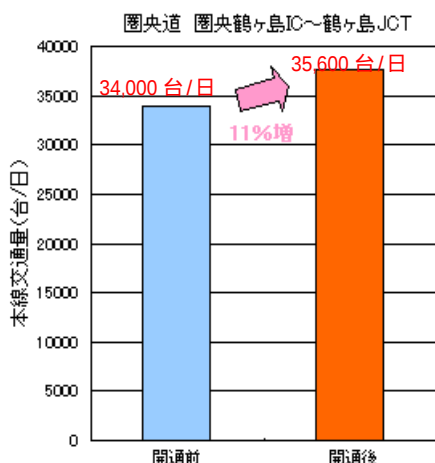
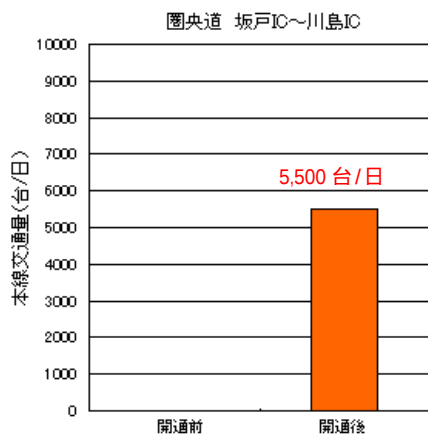
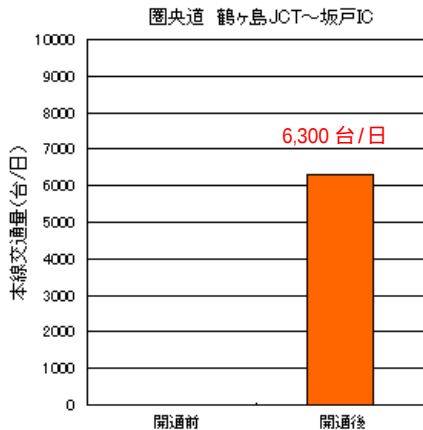


■ 新たに開通した「圏央道(鶴ヶ島 JCT - 川島 IC)」を1日あたり約5～6千台が利用

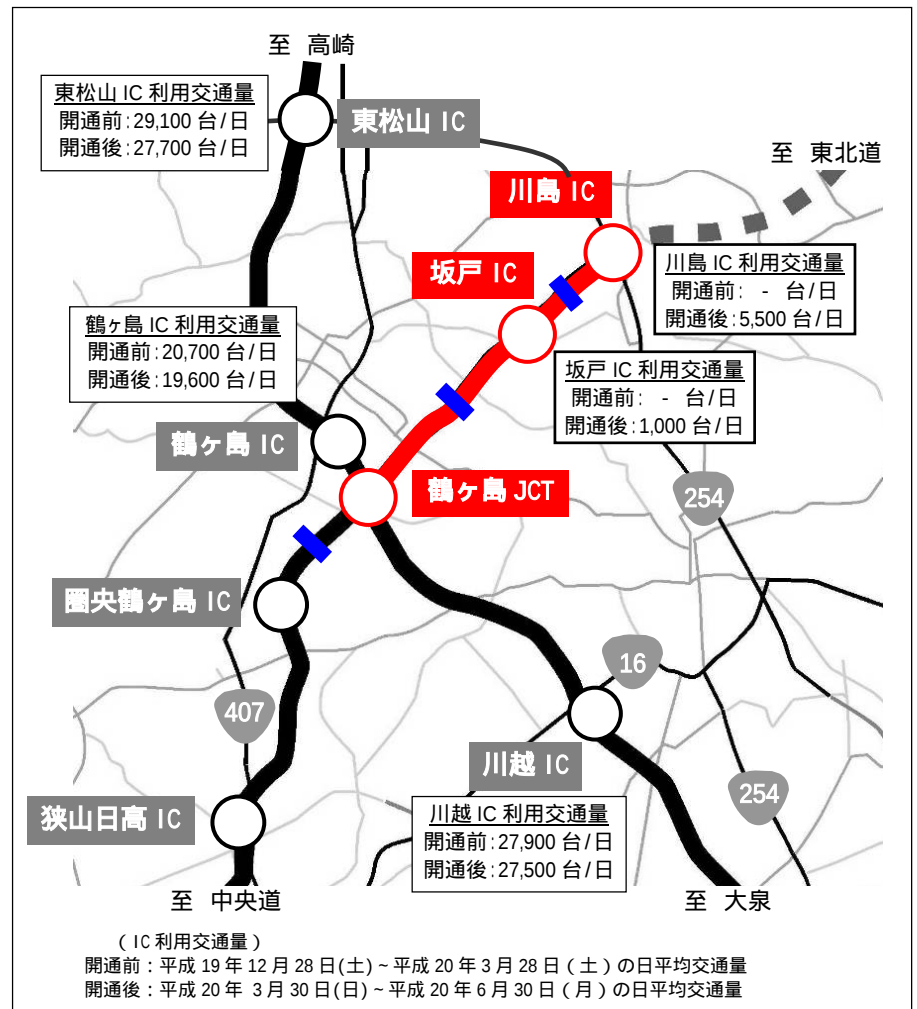
- ・ 鶴ヶ島 JCT～坂戸 IC 間の本線交通量は約 6,300 台/日、坂戸 IC～川島 IC 間の本線交通量は約 5,500 台/日です。
- ・ 坂戸 IC の利用交通量は約 1,000 台/日、川島 IC の利用交通量は約 5,500 台/日です。

圏央道（鶴ヶ島 JCT～川島 IC）本線交通量及び IC 利用交通量



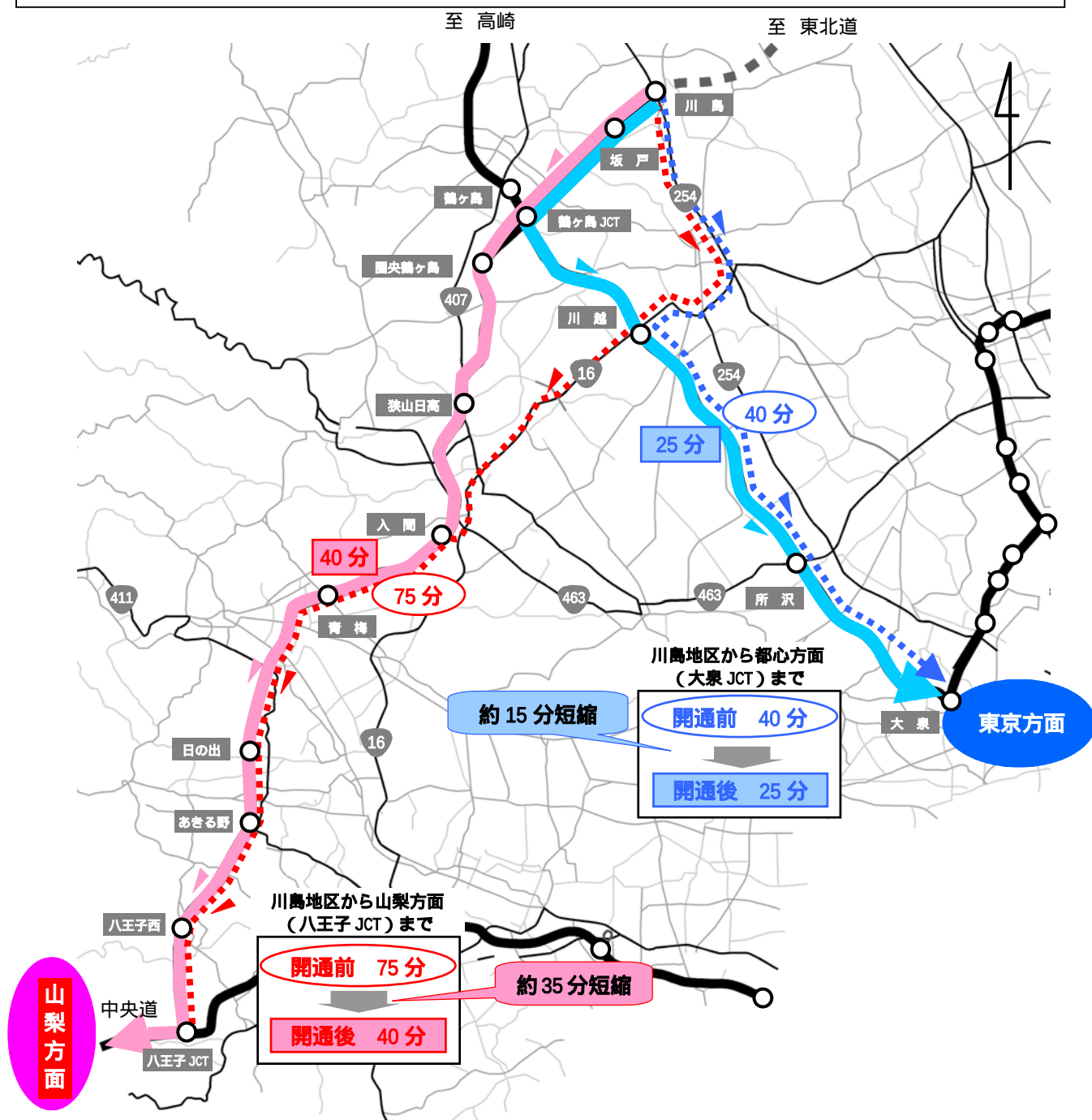
(本線交通量)

開通前：平成 19 年 12 月 28 日(土)～平成 20 年 3 月 28 日(土)の日平均交通量
 開通後：平成 20 年 3 月 30 日(日)～平成 20 年 6 月 30 日(月)の日平均交通量



■ 鶴ヶ島 JCT～川島 IC 間の開通により、東京・山梨方面への所要時間が大幅に短縮され、アクセスが向上しました。

- ・ 川島 IC～関越道大泉 JCT までの所要時間が、約 40 分から約 25 分となり、国道 254 号や国道 16 号を利用した場合と比較すると、約 15 分短縮されました。
- ・ 川島 IC～中央道八王子 JCT までの所要時間が、約 75 分から約 40 分となり、国道 254 号や国道 16 号を利用した場合と比較すると、約 35 分短縮されました。



旅行時間算出の考え方
 (開通前)
 一般道: 平成 20 年 1 月 23 日(水)、24 日(木)の旅行速度調査結果の 12 時間平均旅行速度
 圏央道、関越道: 法定速度
 (開通後)
 一般道及び圏央道(川島 IC-入間 IC 間)
 : 平成 20 年 6 月 24 日(火)の旅行速度調査結果の 12 時間平均旅行速度
 圏央道(入間 IC-八王子 JCT)、関越道(鶴ヶ島 JCT-大泉 JCT): 法定速度

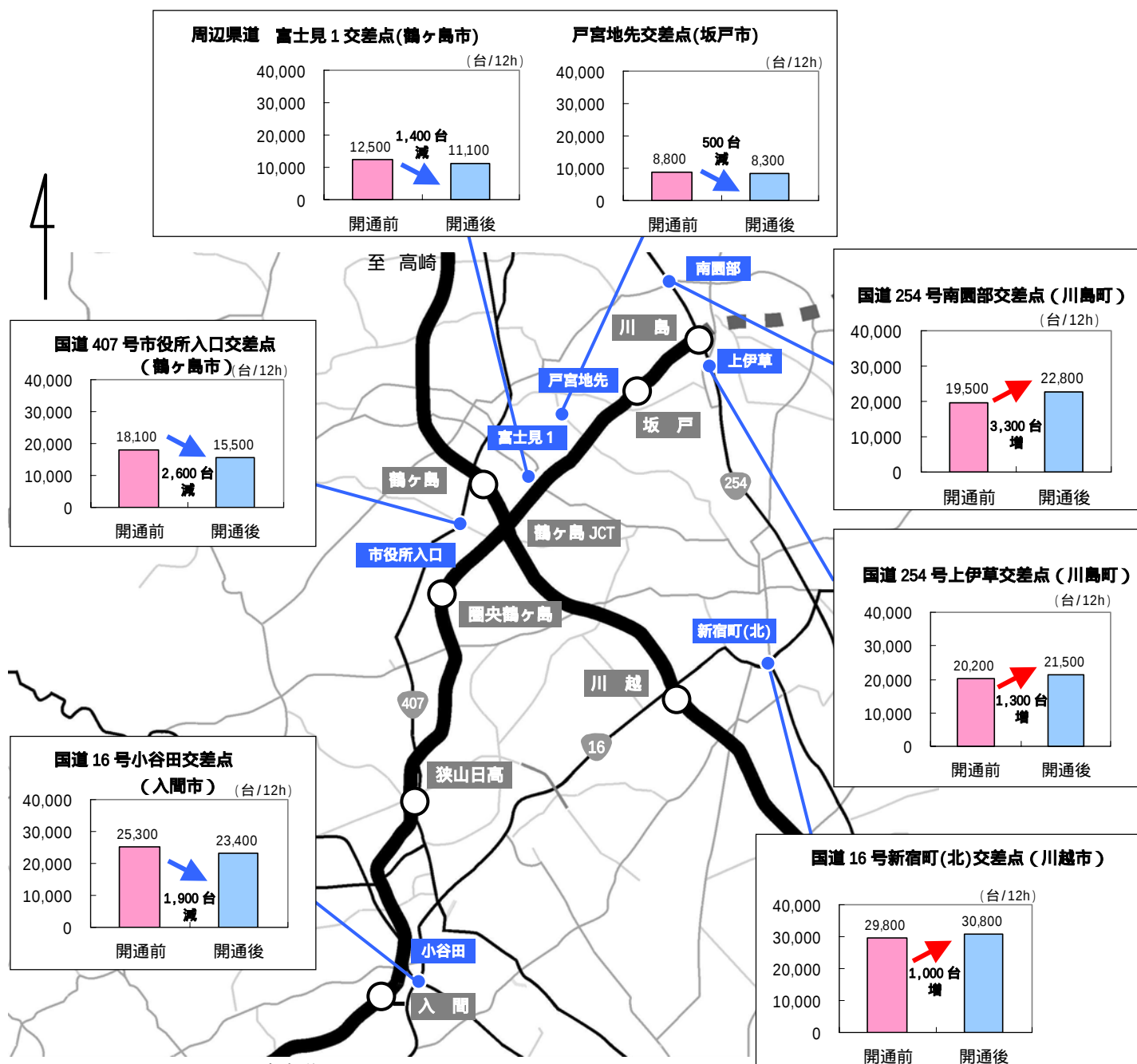
■ 周辺道路の交通量が変化しています。

鶴ヶ島 JCT～川島 IC が開通後、国道 407 号市役所入口交差点(鶴ヶ島市)では約 2,600 台/12h (14%)、国道 16 号小谷田交差点(入間市)では約 1,900 台/12h(8%)の交通量が減少しました。

鶴ヶ島 JCT～川島 IC が開通後、国道 16 号新宿町(北)交差点(川越市)では約 1,000 台/12h(3%)の交通量が増加しました。

川島 IC へのアクセス交通により、国道 254 号南園部交差点(川島町)では約 3,300 台/12h(17%)、上伊草交差点(川島町)では約 1,300 台/12h(6%)の交通量が増加しました。

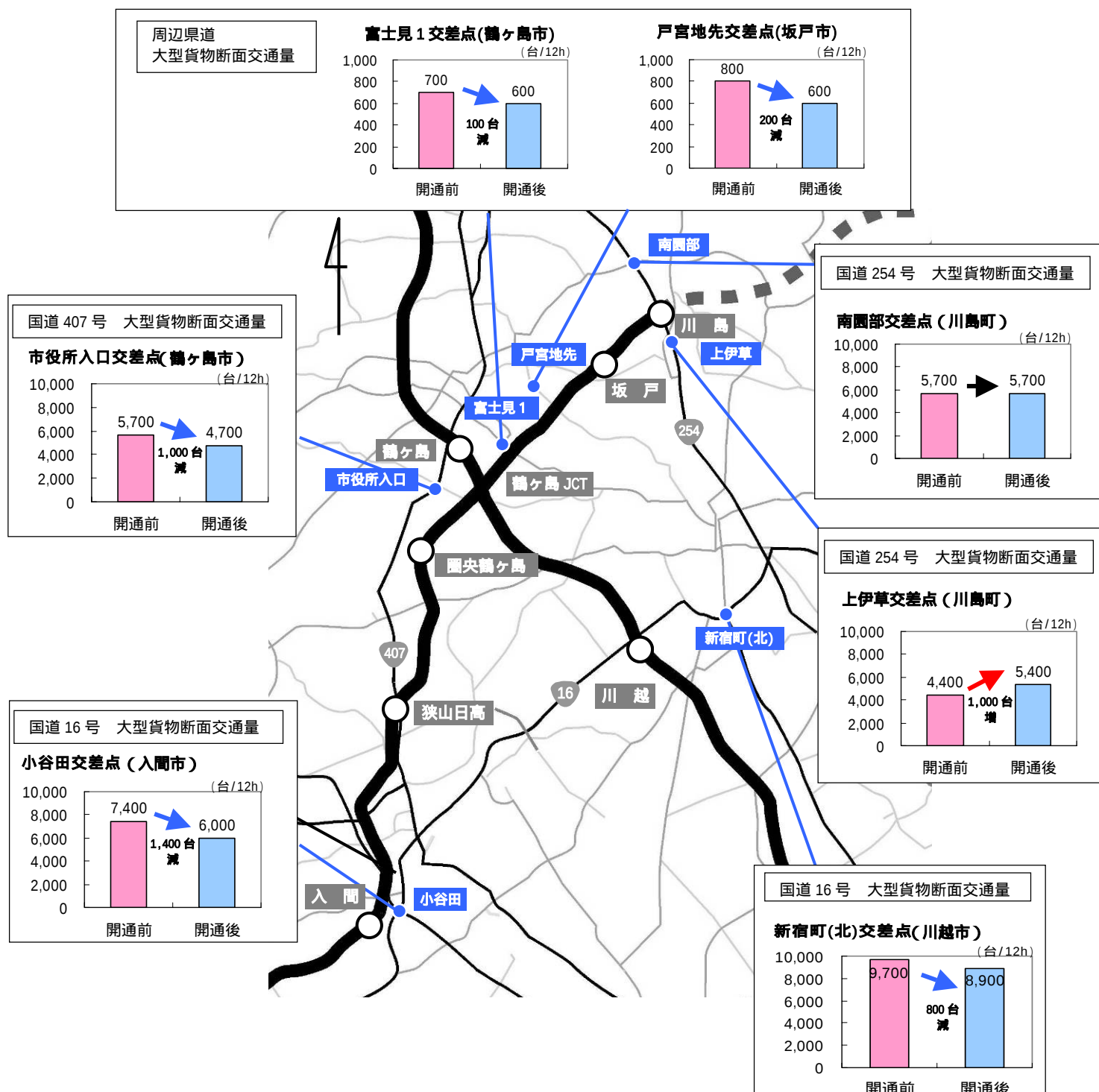
周辺の県道では、富士見 1 交差点で約 1,400 台/12h(9%)、戸宮地先で約 500 台/12h(6%)の交通量が減少しました。



(開通前)
平成 20 年 1 月 22 日(火)、24 日(木)、29 日(火)の交通量調査結果
(開通後)
平成 20 年 6 月 24 日(火)の交通量調査結果

■ 周辺道路における大型車の交通量が変化しています。

- ・ 圏央道・関越道以南の国道 16 号、407 号では、大型車が減少しました。開通区間周辺の県道(富士見 1、戸宮地先)においても、大型車が減少しました。
- ・ 川島 IC に近接する国道 254 号上伊草交差点では、大型車が増加しました。



(開通前)
平成 20 年 1 月 22 日(火)、24 日(木)、29 日(火)の交通量調査結果
(開通後)
平成 20 年 6 月 24 日(火)の交通量調査結果

■ 埼玉県内の圏央道整備により新たな企業の立地が活発化します。

- 埼玉県内の圏央道が全線開通後、計画的な産業基盤づくり¹による経済波及効果として、初期投資により約 1,200 億円²、工場の操業により年間約 6,000 億円³が見込まれます。
- 圏央道鶴ヶ島 JCT～川島 IC 間の開通により、川島 IC 周辺の産業基盤整備・企業立地が進展し、地元雇用も増加する見込みです。
- 川島 IC 北側地区では、造成工事が始まりました。

1: 田園都市産業ゾーン基本方針(埼玉県)に基づく産業基盤づくりの目標量 180ha(開発の全体面積)を対象

2: 産業団地の造成や工場の建築などによる効果

3: 全ての工場が操業することによる効果(埼玉県試算)

平成17年



平成20年6月



19区画のうち工業、流通
合わせて17区画が内定

平成20年6月現地の状況
川島IC北側地区



土地区画整理事業の工事が進行中。



圏央道周辺に企業が次々と進出

計画的な産業基盤づくりによる経済波及効果

初期投資による効果

経常的な効果(毎年)

約1,200億円
年間約6,000億円

出典: 田園都市産業ゾーン基本方針の経済効果(1年3年5年試算)

■ 埼玉県の圏央道は、今後も次々つながります。
・ 圏央道によって、埼玉県内に新たな東西の交通軸が形成されます。 ・ 川島IC～桶川JCT(仮称)までの区間について、平成21年度開通を目指し、事業を進めています。

- ・ 圏央道によって、埼玉県内に新たな東西の交通軸が形成されます。
- ・ 川島IC～桶川JCT(仮称)までの区間について、平成21年度開通を目指し、事業を進めています。



平成20年8月現在の状況(川島町三保谷宿地区)

写真 (川島IC方面)



写真 (桶川JCT (仮称) 方面)

